

AMDA News Letter

Association of Medical Doctors for Asia

アジア医師連絡協議会

VoL.4 No.8 8月号

1991年8月15日

編集責任者:田中政宏/山本秀樹

事務局岡山市櫛津310の1

菅波内科医院

(Tel)0862-84-7676

(Fax)0862-84-7645



林原フォーラム (岡山)

主要トピック

国際医療情報センター便り(小林米幸先生)

クルド難民/湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会イラン派遣第一次医療チームへ

AMDAより高橋央先生参加(高橋央先生)

ネパール便り(国際ボランティア貯金助成プロジェクト)(早川氏/山本秀樹先生)

バンコック-クリニックプロジェクト報告(菅波茂/朔元洋先生)

林原フォーラム報告(山本秀樹先生)

赤枝財団設立案内(赤枝恒雄先生)

岩手国際交流協会(岩井くに先生)

全国NGO連絡委員会組織概要

会員活動紹介(大利昌久先生)

事務局便り

AMDA国際医療情報センター便り

154 東京都世田谷区新町2-7-1 横尾ビル201

TEL 03(3706)4243 FAX 03(3706)4420

お知らせ

1)通訳体制(8月7日現在)

	月	火	水	木	金	土
英語	○	○	○	○	○	○
中国語	○			○		○
スペイン語		○	○			
ポルトガル語			○			
フランス語						○

2)事務局人事

7月号でお知らせした通り8月1日より香取恵美子氏(常勤)、後藤朋子(非常勤)の2人体制へ拡充されました。香取恵美子氏は上智大学福祉専門学校卒業後、フィリピンイロカノ地方での保育園活動、アメリカ留学など豊富な国際体験をお持ちです。

3)外国人を受け入れる実務者会議について

来たる9月14日(土)主婦会館(東京/四谷駅下車徒歩4-5分)にてPM5:00より開催いたします。どなたでも参加できます。外国人患者を受け入れる際の具体的な方法やツラブルの解決、センターと医療機関との連携方法などについて実務的な話し合いを行ないます。

4)医師/医療機関アンケートについて

センターより臨床系正会員の皆様にアンケートをお出ししています。3)の会議の資料およびセンターの今後の資料といたしますので受け取った会員の方はよろしくお願いいたします。

5)各外国語問新表作成について

某医師会をはじめとする各方面より小林のもとに問い合わせがあり、センターとして作成することを決定しました。日本在住の外国人の状況を考えて英語、スペイン語、ウルドゥ語、タイ語ベトナム語、カンボジア語、ラオス語などをとりあえず候補として考えています。ご意見のある方はセンターまでご連絡ください。

6)外国人電話相談

世相を反映してかはじめてソビエトやチェコスロバキアなど東欧の人々からの相談が入ってきました

7)地方自治体外国人関連部門、各地区国際交流会などからの問い合わせが依然続いています。情報機関誌にセンターの電話番号をのせてよいかという内容が最も多くなっています。

8)外国人電話相談件数

	4月	5月	6月	7月	計
件数	51	120	90	101	362
		6月	7月	計	

アメリカ	63	35	98
中国	31	15	46
パキスタン	19	7	26
バングラデッシュ	18	0	18
イギリス	8	7	15
カナダ	6	5	11
オーストラリア	7	3	10
ペルー	8	1	9
ブラジル	5	3	8
韓国	7	1	8
ガーナ	5	2	7
アルゼンチン	5	2	7

ナイジェリア	6	0	6
スリランカ	6	0	6
インド	3	2	5
フランス	2	2	4
イスラエル	3	0	3
コロンビア	3	0	3
メキシコ	3	0	3
スペイン	3	0	3
台湾	0	2	2
ネパール	2	0	2
シンガポール	2	0	2
イタリア	2	0	2
タイ	1	1	2

インドネシア、ドイツ、オランダ、ニュージーランド、チェンジア
モロッコ、ザンビア、ドミニカ、マリ、スエーデン、ソビエト、チェコスロバ
キア、アイルランド、香港 各1、他不明2 計362



医療情報センターは、アジア医療連絡会（AMDA）の日本支部（会長：東京、神奈川、岡山等の会費で運営）が四月中旬に開設した。この連絡会には、既に、連日通訳を随いて診療を通じてアジア各国の連、療と医療ネットワークを作、るを目的とする。センター開設は、この団体で、日本支部の会費、の取り組みがベースにあ、は約百四十人。

AMDA国際医療情報センター

在日外国人に医療情報無料提供

読売新聞
在日外国人に、外国語の通訳や日本の医療制度などの情報を無料で提供している「AMDA国際医療情報センター」（東京）がオープンして四か月になる。これまでに、当初の予定を上回る四十か国の人から、四回近い問い合わせがあった。内容は言葉の壁に悩む相談が多くなり、医療機関の開業化の立ち、遅れが目につくという。

4か月で400件近い相談

7割が「言葉」の悩み

「言葉のわかる医師を、紹介して」と在日外国人からの切実な声。センターではスタッフ、らが相談に応じている。

現在、センターでは、英語（毎日）、中国語（月、水、木、土曜日）、スペイン語（火、木、土曜日）、ポルトガル語（水）で応対できるスタッフ、通訳ボランティアが、電話で相談を受けている。

七月末までに受けた件数は、三百六十件。個別に見るとアメリカ九十八件、中国四十八件、パキスタン、フィリピン各十八件、バングラデッシュ十五件など多、く、合わせて四十か国。相談者の居住地域は、首都圏が九割を占めるが、遠く、岩手や福岡ほかからもあ、つた。

圧倒的に多いのが「皮膚科で、薬物が詰る先生を、探している」「妊娠した。スペイン語が話せる医師を、紹介してほしい」といった、自国の言葉がわかる医師の、紹介を求める相談で、全体の七割を占める。

ほかに「エイズの検査をしたのだが」「国民健康保険に入りたい」「安い医療機関を紹介してほしい」など、自治体や医療機関から入院中の外国人患者の医療費についての相談や通、訳の依頼も舞い込んでいる。

センターでは、内容に応、じて、協力医（約百人）が、いる医療機関を紹介した、り、情報提供をしている。

また、医療機関が要請があ、つたため、主要な国による、共通問題表の作成が進、んでいる。

さらに、日本に送っている、外国人医療留学生のネット、ワーク化を検討してい、る。

センター所属の小林孝幸、医師は、「人の交流は、ど、うも国際化しているのに、医療機関だけは、まだまだ、遅れている。国、自治体も、與側に考えないといけな、い」と話している。

なお、同センターの電話、は、（三）三二七〇六四二、四三と七五七四で、平日の、午前九時から午後五時ま、で、土曜日は午前十一時ま、で。

前略、イスラム共和国の首都、テヘランよりお便りいたします。

先の湾岸戦争の影響でイラクから流出したクルド難民を救援するため、7月末から当地に来ております。こちらは今は乾期の盛りで毎日雲一つない青空が広がり、気温は25度から40度の間ぐらいです。午後2時ごろになるとさすがに暑くて街中の人通りは少なくなり、市内のあちこちにある公園では木陰で昼寝をする男たちが溢れています。女たちは真っ黒なチャドルを着て見るからに暑そうですが、湿気がほとんどないためかえって強い日差しに曝されなくていいようです。汗をほとんどかかないのが不思議です。

テヘランは人口600万人の大都会な上、最近では品物がかなり豊富になり、国政も周辺地域の政情も現在安定しているため、街に明るい活気を感じさせられます。

もともと”中東のパリ”と称されたこの街の人々は社交的でお洒落な人が多く、特に若い女性はコミテ（革命防衛隊）の眼を気にしながらチャドルの縁に金糸の刺繍をしたり、モスグリーンのコートの下に白いハイヒールを履いてみたりして生活を楽しんでいるようです。自分の身の回りの事で不自由なことといえば、1日1回は停電して慌ててガスランプを点けねばならないことと、おいしいコーヒーが飲めないことぐらいでしょうか。

アルコールがご法度なのは承知して来たので、無ければ無いなりに苦にはなりません。

物価はイスラム革命の後は輸入品はかなり高く、また国内産の食糧や工業製品も少しずつ高くなってきているため、庶民の不満は絶えないようです。

この1-2週間にテヘランのバザールで3回も不審火がありましたが、これは最近経済的に勢力を回復してきたバザール商人たちに対する怒りであろうと噂されています。

先日は我々のコーディネーター（チームリーダー）の菊池先生とバザールに買物に行ったところ、警察に職務質問されヒヤリとしました。

それでもガソリンが1リッター5円、赤ん坊の体くらいの3-4キロある俵型のメロンが250円程度で手に入りますから西側外国人にとっては生活は楽です。

市中銀行での外貨の両替は1米ドルが公定で65リアル、実際は1,350リアル、と20倍以上開いています。が、銀行でも実勢レートで交換してもらえるので闇ドル商人はほとんどいません。人々は0が多くなるのを嫌って10リアル=1テュマンと呼ぶため、1テュマン=1円と実に計算し易くなり、これが安い安いと買いすぎてしまう原因にもなっています。

さて、私たちの難民救援チーム（JJN: Japanese Joint NGOs）の活動は、最初からトラブル続きですが今までのところ順調に進んでいます。

私たちはイラン西部の国境地帯にある難民キャンプで、衛生教育と越冬生活の情報を教育ビデオを制作して難民に提供しようとしています。また同時に、国連やイラン赤新月社（赤十字）、それに各国から参加している国際NGO（非政府組織）の活動の様子もビデオに収めています。これはドキュメンタリービデオとなってジュネーブの国連本部やイラン内務省、そして当地に入国取材できない海外報道機関に配給されます。

現在コーディネーターの菊池先生とカメラマンの高橋（馨）さんと鈴木くんがテヘランとバクタットの中間にあるバクタラン州の難民キャンプで撮影を進めているところです。

国境州は気温が50度をゆうに越えているので、カメラをかついでの撮影はさぞかし大変だろうと思います。

私が今回キャンプに行けなかったのは、東京のJJNオフィスとの連絡があるばかりでなく、この活動に使用する機材がテヘランの空港税関をなかなか通関しないためです。

今度東京から運んできた物は、最新鋭のビデオデッキや液晶プロジェクター、それに8ミリビデオカメラなどで、このような反イスラム的活動に使われる恐れのある輸入品は通常2-3週間は通関保留となります。その間我々は国連の職員と一緒に空港の中を毎日行ったり来たりさせられて、本当にうんざりさせられます。

1979年に起きたイスラム革命当時は、民衆の多くがより自由で豊かな生活が訪れることを信じていましたが、現在そんなことを口にする人は誰もいません。

それならどうして再び革命が起らないかという、歴史のことだから想像にすぎませんが、80年から8年続いたイラン・イラク戦争と今でも続いているイスラム共和国内部の権力闘争で、もう一度革命を起こそうものならその時は国が滅亡しかねない状況だったからだ、とこちらで地域開発論を研究されている鈴木教授が先日話されていました。この様な

ことは、争いの絶えない中東に生きてきた人々なら誰にでも察するのでしょうか。しかし、湾岸周辺の様子が落ち着いてくると、それぞれの国の内政が混迷してくるのは困ったものです。今こちらの新聞を賑わせているのが、バクティアル前首相をパリで暗殺したのは誰か、という問題で、政府は事件への関与を一笑にふす態度を通していますが眉唾です。

イラン人は我々が想像する以上に親日的です。ロシアに勝った国、街に溢れる日本製品を作っている国、今こちらで爆発的ブームとなっている「おしん」や「武田信玄」の国、そして1時間働けばこっちの2日分の金を手にすることが出来る国、といった虚々実々の情報が人々をそうした態度にしているのでしょうか。白タクに乗れば運ちゃんから「日本の住所を教えてください」とせがまれたり、バザールを歩いていけば怪しげなおにちゃんが寄ってきて、「いい絨毯があるから見にこないかい？」と誘われるのにはこの「親日的」な態度の延長線上にあると思います。

こちらに来てから、「ともだちのともだちは...」式にいろいろなイラン人家庭に招待されました。そのとき感じたことは、イラン人は本当にもてなし好きで、歌や踊りを楽しみ、情にもろいところがあって、日本人と精神構造がよく似ているということでした。中東にいるがアラブでない、イスラム共和国にいるがイスラムだけでない雰囲気を感じさせられます。ある晩、夕食に招待された家で、その二十歳の娘がセタールという大正琴に似た楽器を演奏してくれました。実に幻想的な音色で、たまたま停電中だったこともあって、特にそういう印象を受けました。

印象に残るといえば、イラン女性は屈指の美人ぞろいです。インド・アーリア系の手足が長く、顔の彫りが深く、適当にグラマラスなのが手先と眼の周囲だけ人目に曝しているため、いったいチャドルの下はどんなだろう... とつい反イスラム的な想像をしてしまいます。彼女たちは仕事場や家の中ではチャドルをとるので、そういうときは変な想像をせずにイラン女性の美しさを堪能することが出来ます。

国連のオフィスにも美人秘書がたくさんいますが、彼女等はたいがい高学歴です。もしもイスラム革命がなかったら、きっと有能な社会人になっていくのでしょうかに可哀相に思います。けれども毎朝彼女等に「Good morning! How are you?」といわれると急に力が湧いてくるのは私だけではない筈で、これもまた良しです。

今日まで心身共に健康ですが、どうも軽いイラン熱にかかっているのは事実のようです。日本の出来事はラジオジャパンがうまく受信できるため、高校野球の結果までフォロー出来ます。こちらの新聞にも日本のことは毎日1-2件掲載されています。

このプロジェクトは予定では10月末まで行なうことになっていますが、私は9月にはロンドンへ戻らねばなりません。機会があつたら仕事の話もまたお伝えしたいと思います。それまでどうぞお元気で。

不一

1991年8月15日、テヘランにて

高橋 央

WCRP

WORLD CONFERENCE ON RELIGION AND PEACE

No.151

1991・7・20



財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会

財団法人 岩手県国際交流協会機関紙

いわて国際交流

No.9 7月号

外国人の為に無料、医療情報サービス

アジア医師連絡協議会 (AMDA) 日本支部は4月17日から東京に国際医療情報センターを開設、無料で外国人の医療に関する情報の電話サービス (外国語のわかる病院・医師の紹介、外国人の利用できる日本の医療制度の紹介など) を行っています。診療現場からの電話を通じての通訳も言語によっては可能です。

▶電話03 (3706) 4243、7574

▶Fax 03 (3706) 4420

▶受付時間 午前9時～午後5時 (月～金曜)
午前9時～午後1時 (土曜)

また、AMDAは外国人医療ネットワークに協力して下さる医療機関を募集しています。

関心のある方は下記までご一報下さい。

〒028-63 九戸郡軽米町軽米2-54-5

岩手県立軽米病院内科

岩井 くに

電話0195 (46) 2411



クルド難民

救援募金へのお願い



今年一月十七日、湾岸戦争勃発後、世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会は、中東地域の平和的解決のために、『緊急アピール』文を発表し、宗教者の集まりとして人道的活動に取り組んでまいりました。湾岸戦争終結後には調査団を派遣し、『中東地域での宗教者による和平会議』実現に向けて取り組んでいます。

この度WCRP日本委員会は湾岸戦争後の取り組みの一環として、クルド難民・湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会に加盟致しました。

現在までこのNGO合同委員会は結成以来三回の会合を開き、二回にわたる現地調査を実施し、日本のNGOとして湾岸戦争被災者の方々への人道的な援助活動について検討し

てまいりました。

特に第二回目の現地調査に派遣されましたアジア医師連絡協議会の高橋央氏は、現地の状況を調査され、医療活動に関しては、緊急医療のニーズは少なく、今後は予防医学的な活動に移行していくとの予測から、『水』、『栄養』、『衛生管理』、『伝染病』等の予防、そして難民の一部が本国に帰還したとはいえ、残りの難民の方々のキャンプ滞在が長期化する可能性が出てきたことから、これから暮かえる冬への対策のために、そのためのVTRを作成し、キャンプ内で上映するという視聴覚教育プログラムを提案されました。そして先般開かれた会合で実施されることが決定致しました。

そこで、VTR作成のために七月下旬から

三カ月間、人材を派遣し現地での医療活動にあたることになりました。
つきましては、クルド難民救援募金にご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様より頂きました浄財は、クルド難民・湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会の救援活動に役立たせて頂きます。よろしくお願い申し上げます。

平素のお願い事に加えてのことと誠に恐縮に存じますが、湾岸戦争の被災者の方々への救援活動に、宗教者として人道的立場よりご協力させて頂くという趣旨から、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

クルド難民救援募金

〈送金先〉

(口座名) WCRP中東和平プロジェクト

(口座番号) 富士銀行中野支店

普通預金口座一六一五四〇二



クルド難民民間ボランティア

わが国の民間ボランティアの予定。

ア十七国で構成する「クルド難民・湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会(有馬実成委員長)のイラン派遣医師ら四人の壮行会が二十五日夕、東京・文京区のNGO活動推進センターで行われた。

一行はイラン入りしたあと、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の手配した車でキャンプを回り、病室予防と衛生指導のためのビデオを作製、現地で上映して難民の医療教育に役立てることにしている。

派遣されるのはアジア医師連絡協議会の高橋保（ひろし）医師（三）、国際保健協力市民の会の菊池陽一（ひかり）医師（五）、カメラマンの高橋肇（はつ）さん（四）、鈴木大介（だいすけ）さん（三）だ。今日の派遣は六月廿四日下見のため現地を訪れた高橋医師の報告に基づいて、同委員会が今月上旬に活動内容と派遣メンバーを決定した。

さん三の四人。高橋医師は今日二十六日、残る三人は同二十九日、八月五日に現地向け成田から出発すいう。また、これらの活動

ボランティア活動をしている

国内の十七の非政府組織（NGO）でつくる「クルド難民・湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会」から派遣され、二十六日にイラン西部のバクタラン州に行く。難民キャンプを回って、ビデオを使った保健衛生の教育をするが、医師として助言を与えるだけでなく、教材のビデオも現地で製作する。

六月に事前調査に行った。惨状を伝える報道が多かったが、時間がたったこともあって、難民の生活はかなり安定していた。

「イラン政府が、これまでの欧米からの悪評を払拭（ふっしよく）しようと、かなり医療態勢に力を入れたようです」

NGOの派遣でクルド難民の救援活動に行く

たか はし ひろし
高 橋 央さん



東京都世田谷区生まれ。長崎太
医学部卒。89年から今年5月まで
都立豊島病院勤務。現在は長崎大
熱帯医学研究所博士課程で寄生虫
病学を専攻。29歳。

加えて「国境なき医師団」などの一員として何人かが入っている程度だ。

規模な救援活動も見逃せない。
それに比べ、日本は国系赤十字
と『日本でボランティアとい

イラン滞在のクルド難民の救援に派遣
されるボランティア医師らの壮行会

材購入は、同委員会に寄せられた約六百五十万円の寄付と、曹洞宗からの特別寄クルド・湾岸募金。

る奉仕活動と見られるが、実際は相手の窮状に応じた特殊な能力が要求される。でも日本では医師のような専門職が長期間ボランティア活動するのは不可能ですからね」

日本が出来る活動は何かと考
えて、高度で扱いが簡単な日本
のビデオ機器を使った今回のプ
ロジェクトを思いついた。

「キャンプのある場所は山岳地帯で、冬は寒さが厳しいし、水も少なくなる。保温の知識や水を使わず衛生状態を保つ方法などを伝えたい」

九月に英國に留学するまでの
休暇を今回の活動にあてた。プ
ロシエクト終了まで活動できな
いのが心残りという。

(黑沢 充)

日本の民間
グループ
クルド人難民キャンプで

テント暮らしの続くイランのクルド人難民のため、八月からキャンプにビデオがおり、映像の「教育」は大きな効果が期待され、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）もビデオ編

と見られるが、実際に応じた特殊な能力がある。でも日本では、

を持ち込んで保健衛生教育を行おうという前例のない試みが日本の非政府組織（NGO）グルプの手で進め

果たすに協力する。計画しているのはアジア医師連絡協議会（AMDA）など日本の土上のNGOで構成する「グルド難民・沿岸戦争被災者救援NGO合同委員会」（東京都文京区、伊藤道雄事務局長）。

委員会は今月四月に結成され、六月にAMDAの高級橋梁医師（ミルをイランに派遣、難民キャンプで「何が必要か」を調査した。その結果、生活は最低限度以上の水準を満たしており、救急医療より、予防のための衛生教育やキャンプ生活の長期化に備えた越冬対策を

難民たちに徹底する方が大切、との結論になった。

内容は、衛生教育のほか、娯楽用にアニメの「ドラえもん」も放映する計画だ。

機材や運搬費には千二百
万円かかる見込み。連絡と
支援は同委員会（03・3
818・8613）へ。

A M D A ネパール巡回診療プロジェクトについて

平成3年度郵政省国際ボランティア貯金により助成されるA M D A、ネパール巡回診療事業の事業推進のために、このほど、北海道大学医学部の早川氏がこのほど現地を訪問して、事業の打ち合せを行ってきました。現地A M D A ネパールからのメッセージを今月号で、早川氏による現地の進行状況を来月号で報告していきます。

A M D A Newsletter の読者へのメッセージ

A M D A ネパール
Dr. Rameshwar P. Pokharel

A M D A、Internationalの支部であるA M D A、ネパールはネパールにおいて公式に登録された団体となった。そして、われわれは1991年7月からネパールの田舎の村において試験的に農村開発プロジェクトを開始した。われわれは、患者のケアのための診療所を建設し、地域のニーズと健康問題を把握するために調査を施行した。その後、われわれは村において必要とされる保健活動を始める予定である。このプログラムは、A M D A 日本支部によって援助を受ける。プロジェクトの終了後は、健康福祉活動を訓練を受けた少数の村のボランティアによってプライマリー・ヘルス・ケア（P H C）が継続的に運営されるように計画されている。われわれ、A M D A ネパールは将来診療所を定期的に視察する予定である。

ネパールにおける、人材がトレーニングを済ませた後は、診療所を毎日運営させる予定だが、当面は週1回とする。検査設備は後ほど追加する予定であるが、基本的な設備は外部からの援助だけでなく、A M D A ネパール内部で調達するようにしなくてはならない。このプログラムの、調査で明らかになった事実や数字は将来利用できるようにはならなくてはならない。

このプロジェクトの主な目的は、村において健康増進の意識を形成することで、例をあげるとそれぞれの家庭にトイレと、煙の出ないかまどを作り、自分の家の回りの環境については自分たちで管理ができるようにするものである。栄養のある食事を手近に得られる材料から作り、病人を家庭で介護し、妊産婦や乳幼児のケアを行い、家族計画の対象となる家庭においては家族計画の方法を指導し、成人の教育や、余暇や文化の時間をつくり出すように村人を指導するのがわれわれの仕事の目標である。

この事業の結果や経験は将来関連ある分野において有用となるであろう。われわれは、この事業を始めたばかりであるが、プロジェクトはスムーズに進行し、未来によってわれわれの成功が最大限導かれるであろうと希望する。

日本のみなさん協力ありがとう

今後のスケジュールとボランティア募集のお知らせ

- 91年10月：第1次日本人スタッフ派遣
（医師：山本秀樹参加予定）
- 12月：巡回診療車ネパール着
- 92年2月：第2次日本人スタッフ派遣
- 6-7月：第3次日本人スタッフ派遣

ボランティアとして参加希望の方は事務局までご連絡下さい。正会員：医師、準会員看護婦、コーディネーターとして募集します。詳しい業務内容は事務局までお問い合わせ下さい。なお派遣前に、岡山まで打ち合せに数回参加することが条件です。

AMDA-International Bangkok Clinic設立計画について

長期間AMDA-ThaiとAMDA-Japanとの間で検討されてきたAMDA-International Bangkok Clinic設立計画がいよいよ具体化することになりました。8月3日より3日間バンコックにてAMDA-Japanよりは菅波茂／朔元洋先生、AMDA-ThaiよりはDr.Nipit/Ms Suwannnaを中心にして話し合いが持たれました。

場所はスクンビット通りの居住地区でアンバサダーホテルの近くに来年3月に新しくできる22階建Saranjai Mansoionの一階（約35坪）です。下図を参考にして

ください。ここはAMDA-Thaiの事務所としての役割も兼ねます。AMDA-Internationalのプロジェクト推進効果が期待されます。購入価格は3000万円です。AMDA-Japanが出資によって買取り、AMDA-Thaiに賃貸しする形になります。運営はAMDA-Thaiが責任をもって行なうことになります。

AMDA-JapanではこのAMDA-International Bangkok Clinicへの出資者を募集しています。詳しくは岡山事務局までお問い合わせください。



Saranjai Mansion is located in the heart of Bangkok, near the Ambassador Hotel. The building is a 22-story high-rise building with a total area of 3500 sqm. It is a prime location for a clinic.



AMDA フィリピンの Dr. Kenneth Hartigan-Go をはじめとして中国、韓国、フィリピン、タイ、シンガポールからのアジア諸国の研究者を交えて、岡山市及び倉敷市で8月16-17(林原フォーラム)、18-19日(川崎フォーラム)アジアの生物学的モニタリング、アジアの産業医学に関して活発な討論が行なわれました。

今回のシンポジウムの成果を、AMDAの中に専門委員会を作成して情報交換、測定精度管理の実施をすることが決定しました。実行委員長の緒方正名名誉教授よりAMDAの専門委員会の議長に就任しても良いという申し出もありました。また、これらのシンポジウムの講演集をAMDAフィリピンによって出版する事が決定いたしました。そして、AMDA ニュースレターで継続的に情報交換を行っていくことも決定しました。

今回のシンポジウム開催に御協力頂いた、林原株式会社、両備財団、岡山大学、川崎医療福祉大学の皆様、遠方よりおこしいただいたシンポジスト、座長の先生方に感謝致します。

日本経済新聞

1991年(平成3年)8月10日(土曜日)

アジアの研究者と 産業衛生シンポ

林原共済会、17日から

林原共済会(事務局岡山市理事長林原健氏)は十七、十八の二日間(国際シンポジウム)アジアの発展途上国における生物学的モニタリングを岡山市内の林原生物化学研究所で開催する。鉛など有害化学

物質を使う工場作業者の健康に与える影響について、日本のほかアジア五カ国の研究者が意見交換。工業化の進むアジア地域の産業衛生について考える。

「生物学的モニタリング」とは血液や尿などから体内にある有害物質を測定、作業者の健康状態を評価すること。有害物質は鉛や有機溶剤など、神経マヒなど人体にさまざまな影響を与える。日本では平成元年からモニタリングが義務づけられているが、対応が遅れているアジア各国では深刻な社会問題になっている。

シンポジウムでは緒方正名岡山大学名誉教授らが日本やアジア各国の現状を報告。今後予想される環境汚染や職業病に備える的確な調査、評価方法をなどを討議する。緒方を名誉教授は「シンポジウムを通じて、アジア各国の産業衛生に貢献したい」としている。

1991年(平成3年)8月10日

土曜日

17日から林原
フォーラム

アジアの発展途上国の生物学的モニタリングをテーマにした「林原フォーラム」国際シンポジウムが十七、十八の両日、岡山市藤崎の林原生物化学研究所で開かれる。

生物学的モニタリングは、血液や尿から人体のに取り込まれた有害物質の量を測定、健康への影響を評価すること。産業が急速に発展しているアジア諸国で鉛や有機溶剤による環境汚染や職業病が多発、防止のためモニタリングが重要になっている。シンポは林原共済会(岡山市下石井、林

原理事長)と、アジアで医療活動を行っているアジア医師連絡協議会(AMDA)の共催。

参加者は、緒方正名・岡山大学名誉教授をはじめ、韓国、中国、フィリピン、タイなど六カ国の医師、AMDAのメンバーら二十一人。各国の生物学的モニタリングの現状や遺伝子工学

産業医学でシンポ

19日に
倉敷で
アジアの医師40人

アジアの産業医学をテーマにしたシンポジウムが十九日、倉敷市松島の川崎医療福祉大学で開かれる。

参加者は、緒方正名・川崎医療福祉大学大教授(岡山人)がそれぞれの国の産業医学の現状や健康管理などについて発表。

二十日は参加者が岡山市内尾、県環境保健センターなど見学する。

AMDAの三団体。



シンポジウム実行委員長
緒方正名先生



川崎学長を表敬訪問する
参加者たち



Dr. Ong (シンガポール)と
Dr. 野見(自治医大)

平成3年度 赤枝医学研究財団助成公募要項

財団法人 赤枝医学研究財団
理事長 赤枝 恒雄

下記により赤枝医学研究財団の助成を公募します。

I はじめに

女性の一生は小児期→思春期（生殖機能準備期）→成熟期（生殖機能旺盛期）→更年期（卵巣機能脱落期）→老年期（生殖無能力期）と変化に富み、その間性機能の面からは初経・月経・排卵・妊娠・分娩・授乳・閉経というかなり急激な変化があるため、性機能・自律神経、情動の均衡が乱れがちになり様々な愁訴をもつことが多くなります。

また感染を機会とした不潔な性交渉、妊娠中絶、分娩等による骨盤内感染症に伴う不定愁訴や各種婦人科手術に伴う術後不定愁訴も報告されています。また、夫婦関係、母子関係に伴う不定愁訴も男性に比べて女性のほうに出現しやすいものです。

従って、これら婦人に関する不定愁訴の成因から予防に至るあらゆる分野の研究助成を行うことにより婦人の健全なる心身の発達に寄与するため、下記により赤枝医学研究財団助成を公募いたします。

II 助成の対象

〔研究〕

1. 婦人の不定愁訴及びそれに関連する疾患の成因に関する研究
 2. 婦人の不定愁訴及びそれに関連する疾患の病態生理の解明に関する研究
 3. 婦人の不定愁訴及びそれに関連する疾患の疫学に関する研究
 4. 婦人の不定愁訴及びそれに関連すると思われる神経領域に関する研究
 5. 婦人の不定愁訴及びそれに関連する疾患の診断・治療に関する研究
 6. 婦人の不定愁訴及びそれに関連する疾患の予防に関する研究
- これらの分野からの独創的かつ、将来の発展を期待しうる研究を対象とします。

〔国際交流活動〕

7. 婦人の不定愁訴に関する研究を海外で行う者又は研究成果を海外で発表するため渡航する者への助成
8. 海外に在住し、婦人の不定愁訴に関する研究のために来日する者及びそれに関する研究発表のために来日する者への助成

Ⅲ 応募規定

1. 本財団以外の財団及び機関からの助成と重ねて助成を受けることは出来ません。
2. 応募者（研究代表者）は個人またはグループとします。グループとは1名が研究代表者となり数名（8名以内）を研究協力者とする場合です。
3. 助成は1年間とします。
4. 助成を受けた者は原則として本財団に対し400字詰め原稿用紙4枚程度の最終報告をし、本財団の研究會にて研究及び活動の報告をしていただきます。
5. 助成金額は研究1件につき100万円5件、活動1件につき50万円4件とします。

Ⅳ 応募方法

応募者は所屬長の推薦書を添え、所定の申請用紙に記入の上、お申し込み下さい。所定の用紙は当財団事務局にお申し込み下さい。

尚、申請書・応募論文（400字詰め原稿用紙3枚程度）・推薦書・履歴書（研究協力者も提出して下さい。）・主要論文（3篇以内）以上のコピーをそれぞれ13部添付して下さい。

Ⅴ 締切期日：平成3年10月末日

Ⅵ 申 込 先：〒106 東京都港区六本木6丁目11番35-201号
財団法人 赤枝医学研究財団 事務局
電話 03 5410-2751
FAX 03 3403-4680

Ⅶ 助成の選考は選考委員会にて行い、理事会の承認を経て実施されます。
選考委員会は下記委員により構成しております。（敬称略、五十音順）

選考委員長	荒木 勤	日本医科大学産婦人科学教授
選 考 委 員	麻生 武志	東京医科歯科大学産婦人科学教授
"	荒賀 泰太	厚生省保健医療局企画課長
"	井口登美子	東京女子医科大学産婦人科学教授
"	岩崎 寛和	筑波大学医学部産婦人科学教授
"	兼子 和彦	葛飾赤十字産院院長・日本医科大学客員教授
"	越野 立夫	日本医科大学産婦人科学助教授
"	高山 雅臣	東京医科大学産婦人科学教授
"	中村 幸雄	杏林大学医学部産婦人科学教授
"	平川 舜	東邦大学医学部産婦人科学教授

Ⅷ 助成決定日：平成3年11月末日 採・否の結果は文書で通知します。

「全国NGO連絡委員会」組織概要

1. 名称: (日本語名) 全国NGO連絡委員会
(英語名) Japan NGOs Coordinating Committee
2. 事務局所在地: 〒113 東京都文京区本郷1-14-5 NGO活動推進センター 411
☎03-3818-8613
3. 委員構成

(趣旨)

全国NGO連絡委員会は「全国NGOの集い」実行委員会を発展拡大したものと見て位置付け、その委員は、実行委員会の委員の他に、各地域ならびに各分野で活動するNGO関係者を委員として推薦した。

(構成)

委員 長	高見 敏弘 (NGO活動推進センター理事長)
副委員 長	平田 哲 (関西国際協力協議会副議長)
常任委員	岩崎 駿介 (日本国際ボランティアセンター代表)
	ステファニー・レナート (名古屋第三世界NGOセンター代表)
(書記担当)	草野 賢一 (神戸NGO協議会代表)
(会計担当)	南 研子 (アマゾン熱帯森林保護団体代表)
(兼事務局長)	伊藤 道雄 (NGO活動推進センター事務局長)

連絡委員

荒川純太郎 (アジアに学ぶ会)	有馬 実成 (曹洞宗ボランティア会事務局長)
石田 進 (京都NGO協議会代表)	大野 力 (かながわ国際協力ネットワーク世話人) 【依頼中】
榎本 慈弘 (アзиатフォー・インターナショナル 日本支部事務局長)	古賀 武夫 (地球市民の会事務局長)
坂田 喜子 (世界の子どもと手をつなぐ会代表)	菅波 茂 (南北ネットワーク岡山)
野崎 明 (アジア・フォーラム仙台)	宮崎 幸雄 (開発教育協議会代表理事)
村上 公彦 (アジア協会アジア友の会事務局長)	

(備考)

連絡委員としての参加については、上記の18名に限定せず、今後、地域や活動分野を考慮しながら、広く参加を求めていく。

4. 足りまでの経過

- | | |
|-------|--|
| 3月10日 | 「全国NGOの集い」で「声明」発表。
全国レベルのNGOの連絡組織の具体化が委託される。 |
| 3月18日 | 評価アンケート実施。
連絡組織の発足に対して積極的な意見が寄せられる。 |
| 4月21日 | 「全国NGOの集い」実行委員会第4回会合。
連絡組織の構想について検討する。 |
| 6月16日 | 全国NGO連絡委員会第1回会合。
組織の概要について決定され、委員長をはじめとする常任委員を選出。 |

5. 連絡委員会の役割と今後の活動

「連絡委員会」の第1回会合で標記の件について意見交換を行った結果、次のような点が指摘または提案され、今後、これらを踏まえながら更に検討していくこととした。

(1) NGO内部の強化策として

- ①組織強化: NGO合同の募金活動の実施、共済組合制度の検討
- ②人材育成: NGOスタッフの合同研修、人材の発掘及び確保のための制度作り
- ③ネットワーク: 国内NGO間の意見及び情報の交換の促進、第2回「集い」の準備
- ④NGO外部への対応策として
 - ①政府各省庁の動向への対応ならびに政府への提言活動
 - ②海外NGOとの連携とネットワーク
 - ③一般市民への働きかけと開発教育の推進

6. 財源

同じく「連絡委員会」の第1回会合で検討した結果、次のような点が指摘または提案された。

- ①活動資金の財源については、「身銭を切る」ことを基本的な考え方とし、連絡委員会への賛同団体を募り、会費制度をもって運営する。
- ②その他、財団等からの助成金の可能性を探る。

7. その他

特に、5及び6については、「集い」の参加者へのアンケート調査を実施して、関係者の意見や要望を広く反映させていく。

以上

おおり医院

Dr. OWRI CLINIC

大 利 昌 久 先生

有床(19床)診療所

9月2日開院 内科・小児科・小外科・理学診療科の他、
新規開院に伴い在日外国人医療、特に、通訳(タガログ語)
の助けをえて在日フィリピン人の医療を企画しました。

神奈川県足柄上郡山北町山北192

小田急線新松田駅下車(のりかえ) JR御殿場線山北駅下車
(山北駅より徒歩10分、あしがら農協山北支部隣り)

《院長の素顔》

1942年生まれ、長崎大学医学部卒、東京大学物療内科学教室入局、東京大学医化学研究所助手、横浜市立大学医学部講師、米国コロラド州立大学助教授、外務省医務官、国際協力事業団顧問医を経て開業。
医学博士、熱帯医学専門医、内科医。

《現在》

神奈川県医学会評議員

神奈川県内科医会幹事

足柄上医師会理事

海外邦人医療基金運営委員

TEL

0465-75-0056 (代表)

FAX

0465-75-1997 (直通)

《AMDA入会に際して》

パスポートをもって国境を越えた人たちが世界中で4億人をこえています。日本人だけでも近年1000万人が海をわたり外国に出ました。この数は、このまま世界の経済の流れが続くかぎり減ることはないでしょう。多くの外国人も日本に入ってきています。なかでも在日外国人といわれる人たちは、100万人をこえたそうです。

私、東京大学医科学研究所で熱帯病の研究をし、その実践の場として外務省に入り医務官としてアフリカにわたりました。家族を伴い3年間ケニアのナイロビですごし、いろいろな仕事でアフリカのほとんどの国をまわりました。熱帯のウイルス病、マールブルグ病騒ぎに直面したこともあり、マラリア、赤痢、サルチネラ、出血熱などは日常茶飯事に経験してきました。それに、ケニア国境付近に発生した難民の調査に従事、特に、カラボット地区(ウガンダ国境)、トルカナ地区(エチオピア国境)には、ジープ、セスナ機を利用して難民キャンプに行き、死にいく人たちの医療にも従事しました。

帰国して本来の専門医学を発揮できないでいたところ外国人医療の窮状を知り、新規開院に伴い在日フィリピン人の医療を企画したものです。

8年前に、その必要性を感じ「海外医療を考える医師の会」を結成し、私とその代表を努めました。当時の会員のほとんどは、外務省、国際協力事業団、国立医療センターなどに勤務し外国に出ています。帰国したら、皆によびかけ在日外国人医療の手助けをしてもらおうつもりでいます。

当院で通訳をしてくれる、鈴木クエンカさんと私



【事務局便り】

AMDA会員の赤枝恒夫先生が理事長をされる赤枝財団が厚生省の認可を受けて発足いたしました。母子保健に関する事業を助成対象といたします。くわしくは、東京都港区六本木、赤枝医学研究財団 電話 03-5410-2751 までお願い致します。

これまで、AMDA事務局へFaxを送信するのがたいへんでしたが、AMDA本部事務局(菅波内科医院)にFAX専用回線(FAX 0862-84-7645)がつけましたのでご利用下さい。

【AMDAカレンダー(9-12月)】

9月1-26日: AMDAタイー日本の交換プログラムにて医療団5人来日(岡山)

9月23日: 全国病院管理学会(札幌)「在日外国人の医療問題に関するシンポジウム」

AMDA小林、中西先生シンポジストとして参加

10月中旬: 在日外国人の精神衛生を考えるシンポジウム-山形

10月26-27日(土、日): AMDA秋期例会-岡山

延期になっていた「在日外国人の医療を考えるシンポジウム in 岡山」を27日に併催する予定です。

12月中旬: AMDA冬季例会in 東京

【会員消息】

三宅和久: 8月26日より、「クルド難民湾岸戦争被災民救援NGO合同委員会(JJN)」よりイラン領内のクルド人難民キャンプへ「A-V健康教育」プロジェクトに参加。

野内英樹: 国立病院医療センター国際医療協力部→ジョンズホプキンス公衆衛生大学院

松山章子: ハーバード公衆衛生大学院→帰国

【会費納入者(91.7-91.8)】

正会員-早川實、伊藤恵子、西田道弘

【寄付をお寄せいただいた方】

森岡隆、河本貞男

【編集後記】

八月は林原シンポジウムの準備で大忙しの月となりました。とくにgeneral secretaryの山本先生は、朝早くから夜遅くまで飛び回り、夏の暑さも手伝ってだいぶ体重が減りそうです。そのためnews letterの発行も大きく遅れたことを、おわび申し上げます。ともなれ、AMDA philippinesのなつかしいメンバーに再会出来て、変わらないfriendshipを確かめ会えたことは、今後のAMDA活動への参加への大きな励みとなりました。(T)

【AMDA入会の案内】

AMDA（アムダ：Association of Medical Doctors for Asia）は、1984に設立した、国際NGO（非営利民間団体）で現在13カ国約200人のアジア諸国の青年医師により構成されています。日本支部AMDA, Japanには、約200人の会員（準会員、学生会員も含む）がいます

主な、活動に下記のようなプログラムがあります。

1. フィリピンのスラムにおけるヘルスセンターの運営
2. インドのアユルベエダ医学の研究
3. ネパールの巡回診療所
4. 在日外国人支援医療ネットワーク
5. AMDA国際医療情報センターの運営
6. クルド人難民キャンプにおける「視聴覚健康教育」
7. アジアの産業医学に関する情報交換

入会方法：郵便振替用紙にて所定の年会費を納入して下さい。入会金は有りません。

正会員：10,000円／年（医師に限る）

準会員：5,000円／年（医師以外の社会人の方）

学生会員：3,000円／年（学生に限ります）

ただし、会計年度は4月～翌年3月です。入会の月より、会報を送付致します。

振替先：郵便振替口座「アジア医師連絡協議会：岡山 5-40709」

なお、会費と共にAMDAの各種プロジェクトのためにカンパをお寄せになる方は振替用紙の通信欄に「○○○プロジェクトのために」などのご記入下さい。

郵便貯金口座（ボランティア貯金口座も含む）からの「AMDA年会費」自動引き落とし制度も開始となりました。くわしくは、岡山事務局までお問い合わせ下さい。申し込み書を送ります。

入会の問い合わせ先：〒701-12 岡山市楠津310-1

菅波内科医院内

TEL.0862-84-7676

菅波茂、山本秀樹、田中政宏

パソコン通信による問い合わせ、ニュースレターへの投稿の宛先は、マスターネット ID:AEM367 または、ニフティーサーブ(NIFTY-SERVE) ID:GBA02400 山本までお願いします。パソコン通信に関する電話の問い合わせは TEL 0862-56-4591（夜間のみ：山本）までどうぞ。

AMDA在日外国人医療ネットワークの問い合わせ

AMDA国際医療情報センター

〒154 東京都世田谷区新町2-7-1 横尾ビル201号

TEL.03-3706-4243

FAX 03-3706-4420

-7574

AM 9:00 - PM 5:00 （月～金）

AM 9:00 - PM 1:00 （土）

小林国際クリニック

〒242 神奈川県大和市西鶴間3-5-6-11

TEL.0462-63-1380

FAX 0462-63-0919

AM 9:00 - PM 5:00 （月火木金）

AM 9:00 - PM 1:00 （土）

AMDA国際医療センター平成3年度運営協力者

(順不同敬称略)

以下の方々にご協力いただいています。有難うございます。

個人

丹羽章(栃木県)、故尾沢 一郎氏ご家族(神奈川県)、大串孝子(神奈川県)

医療機関

井上病院(千葉市)、青梅慶友病院(東京-青梅市)、富士見病院(東京-板橋区)、町谷原病院(東京-町田市)、六本木赤枝診療所(東京-港区)、小林国際クリニック(神奈川-大和市)、永生病院(八王子市)、福川内科クリニック(大阪)、菅波内科医院(岡山市)、ジャパングリーンクリニック(シンガポール/英国)、沖縄セントラル病院(沖縄-那覇市)

以上年間12万円

会社

エーザイ、カネボウ(株)、三共(株)、昭和メディカルサイエンス(株)、ジョンソン&ジョンソンメディカル、大鵬薬品(株)、東邦薬品(株)、ファイザー製薬(株)、福神(株)、保健科学研究所(株)、協和発酵工業(株)、明治製菓(株)、田辺製薬(株)、富士コカコーラボトラーズ(株)、日本アップジョン(株)、(株)ミドリ十字、万有製薬(株)、サンド薬品(株)、大森薬品(株)、クラヤ薬品

以上年間12万円

TVC、(株)スズケン 以上年間5万円

大塚製薬 以上年間3万円

なお、当センターの平成3年度の事業に関してトヨタ財団、庭野平和財団、日本青年会議所関東部会からの助成を受けています。

Kan en.